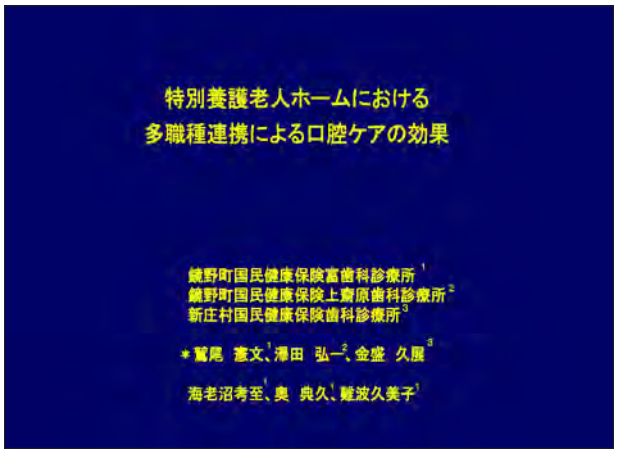
演題 231

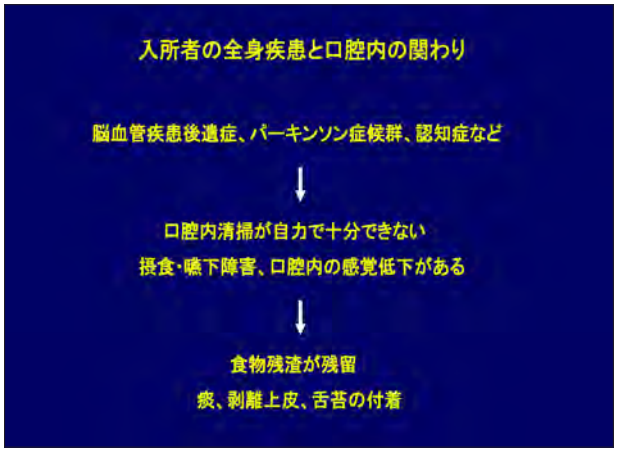
特別養護老人ホームにおける多職種連携による口腔ケアの効果

発表者　鷲尾　憲文（岡山県　鏡野町国民健康保険富歯科診療所）
共同研究者　澤田　弘一、金盛　久展、海老沼　孝至、奥　典永、難波　久美子

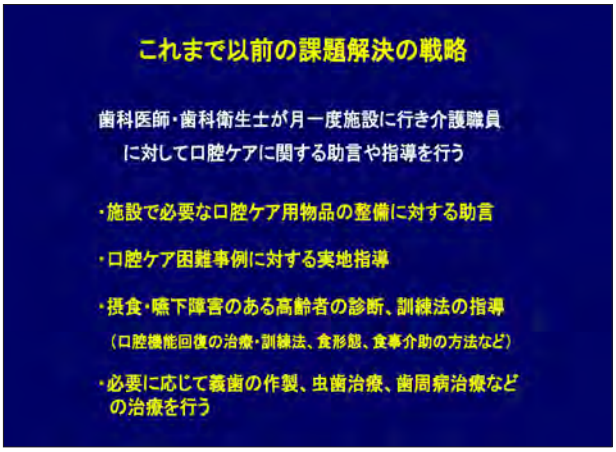


鏡野町内の特別養護老人ホームにおいて多職種連携による口腔ケアおよび口腔機能維持向上の普及活動を行ってきました。その活動内容およびこの活動による効果について報告します。

特別養護老人ホームの入所者は50人で内訳は男性８人、女性42人、平均年齢は86.8歳である。要介護度の内訳は要介護３が10人、要介護４と５がともに20人である。

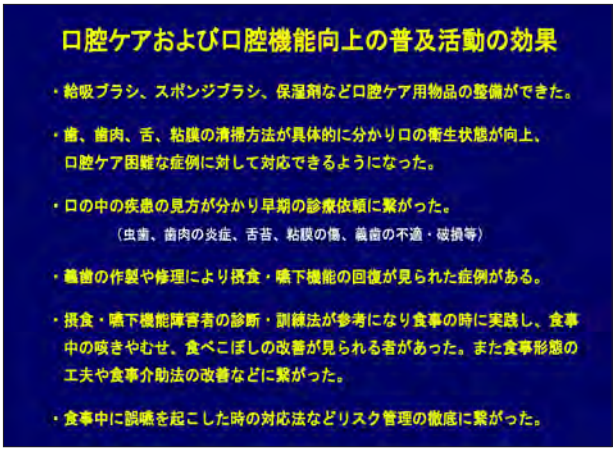


特別養護老人ホームの入所者は脳血管疾患の後遺症、パーキンソン病、認知症などの全身疾患の影響により口腔内の特徴として口腔内清掃が自力で行うことが困難であり、摂食・嚥下障害が見られるため食物残渣の残留、痰、舌苔、プラークの付着が多量にみられ汚染が著しく進行した状態である。



これまで課題解決のため特別養護老人ホームに月に１度歯科医師と歯科衛生士が訪問し介護職員に対して口腔ケアに関する助言や指導を行ってきました。その内容は

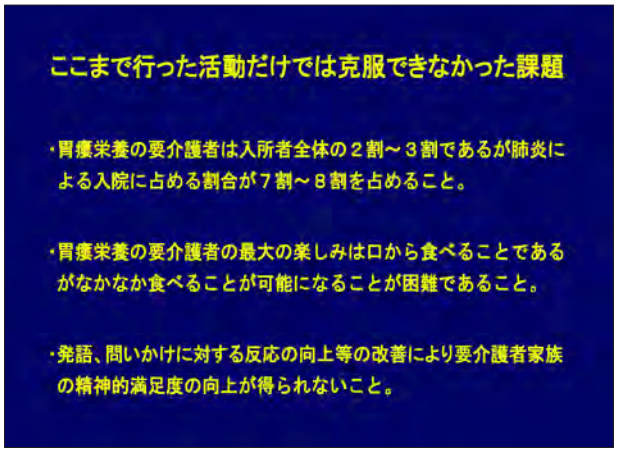
１．施設で必要な口腔ケア用品の整備に関する助言
２．口腔ケア困難事例に対する実地指導
３．摂食・嚥下障害のある高齢者の診断、訓練法の指導
４．必要に応じて義歯の作製、虫歯治療、歯周治療



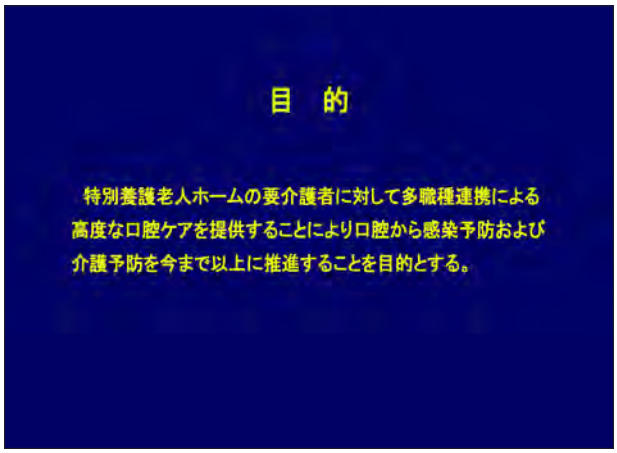
そしてこの活動によって以下の効果が見られました。

１．給吸ブラシ、スポンジブラシ、保湿剤など口腔ケア用物品の整備ができた。

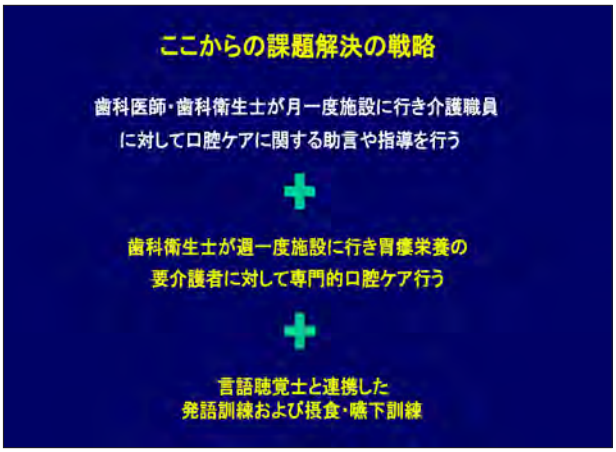
2．歯、歯肉、舌、粘膜の清掃方法が具体的に分かり口の衛生状態が向上、そして口腔ケア困難な症例に対しても対応できるようになった。
3．義歯の作製や修理により摂食・嚥下機能の回復が見られた症例がある。
4．摂食・嚥下障害者の診断・訓練法を参考にした方法を食事のときに取り入れることにより食事中の咳きやむせ、食べこぼしの改善が見られた。また食事形態の工夫や食事介助法の改善などに繋がった。
5．食事中に誤嚥を起こした時の対応法などリスク管理の徹底に繋がった。



しかしながらここまで行った活動だけでは克服できなかった課題が残りました。その内容として胃瘻栄養の要介護者は入所者全体の２～３割であるが肺炎による入院に占める割合が７～８割を占めること。胃瘻栄養の要介護者の最大の楽しみは口から食べることであるがなかなか食べることが可能になることが困難であること。発語、問いかけに対する反応の向上等の改善により要介護者家族の精神的満足度の向上が得られないことが挙げられる。



そこで今までの活動の効果と課題を分析し、特別養護老人ホームの要介護に対して多職種連携による高度な口腔ケアを提供することにより口腔から感染予防および介護予防を今まで以上に推進することを目的とする。



そこでこの課題解決の戦略として今までの活動に加えて歯科衛生士が週に１度、胃瘻栄養の要介護者に対して専門的口腔ケアを行うとともに言語聴覚士と連携した発語訓練および摂食・嚥下訓練を行うことにした。

口腔ケアが困難な入所者に対してどのように口腔ケアをすれば良いか実地指導をおこなっている様子を示しています。この入所者はうがいができないため給吸ブラシを使った口腔ケアを指導しているところです。

摂食・嚥下障害のある入所者の事例検討を行っている様子を示しています。この事例検討では介護職員、栄養士、看護師等が参加し、食事姿勢、食形態、スプーンなどの食器の検討や食事介助の仕方など様々な検討をして個々に合った食事方法を見つけ出していく有効な場となっています。

摂食・嚥下障害者が見られた方が改善した事例を紹介します。

85歳女性で脳梗塞後遺症のため病院にて治療後平成23年３月３日より入所。病院へ入院時から義歯は使用していなかった。食事形態は主食は全粥、副食はブレンダー、水分はとろみを使用。左手を使用しスプーンのみにて自力摂食。歯がないため噛まずに飲み込んでいた。

本人にはお茶や味噌汁などトロミを使用せずに飲むこと、以前のように形のある食事をしたいという希望があった。

そこで旧義歯を使用できるように調整、摂食・嚥下訓練、食器の工夫などを繰り返すことによって現在では普通食を食べることが可能になった。水分もトロミを中止しストローを使って摂取が可能になった。味噌汁も軽いコップをしようすることによりトロミ無しで摂取可能になりました。

胃瘻栄養の要介護者の初診時の口腔内の様子を示します。胃瘻栄養の要介護者の口腔内では口腔から食事摂取をしていないのにも関わらず舌苔、歯肉の炎症、歯肉と歯の間からの排膿、口蓋部の炎症、そして痰、歯石の多量の付着等が見られます。

歯科衛生士、看護師、介護福祉士が全身状態や口腔内の様子を協議し、口腔ケアをどのように行うか決定しています。つまり口腔ケアが画一的にならないように個々の状態、その日の状態に合わせて口腔ケアを行っています。

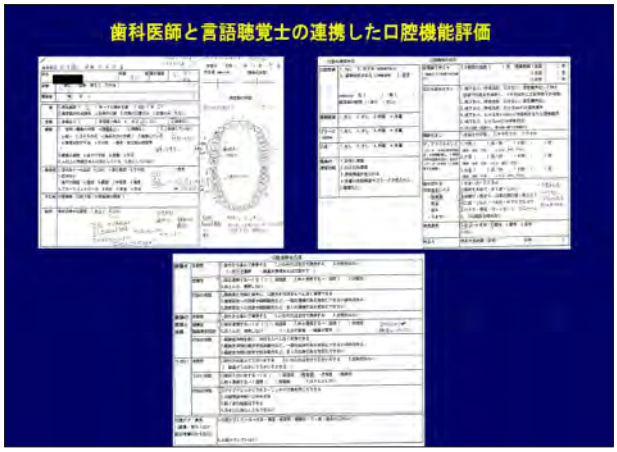
歯科衛生士による週に一度の胃瘻栄養の要介護者に対しする専門的口腔ケアを行うことにより舌苔、歯肉の炎症、歯肉と歯の間からの排膿、口蓋部の炎

症、そして痰、歯石の多量の付着はかなり改善してきました。

胃瘻栄養の逆流により前歯部に多量の痰と胃瘻栄養食物の付着が見られた要介護者の口腔内を示します。歯の表面も胃液による脱灰が見られました。口腔ケアを行うと同時に胃瘻栄養投与後の姿勢の指導も行いました。その結果、口腔ケアを始めて痰の付着はほとんど見られなくなりました。また、口腔ケアを始めて約１ヶ月後にはそれまで全く見られなかった発語が見られました。また歯科衛生士や介護職員などの問いかけに対して反応が現れるようになりました。

この要介護者は歯頚部に多量のプラークと歯石付着が見られました。そのため歯肉に著しい炎症が見られました。口腔ケアによりプラークと歯石の除去を行い歯肉の炎症が改善しました。

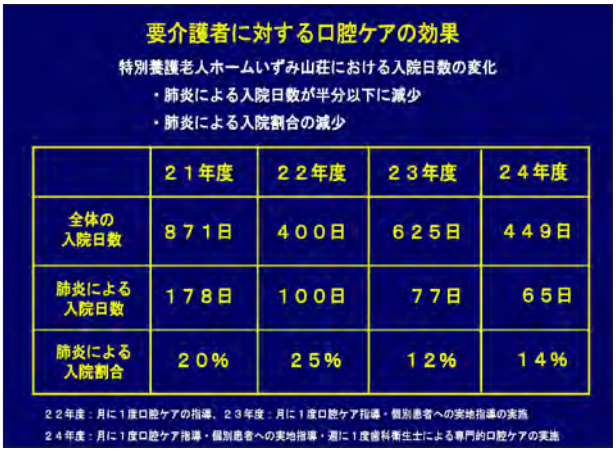
この要介護者は口腔ケアを口蓋および舌にカンジダによる炎症が見られました。口腔ケアを始めてカンジダ症は改善しました。



これは言語聴覚士と連携した口腔機能の評価を行った内容を示しています。

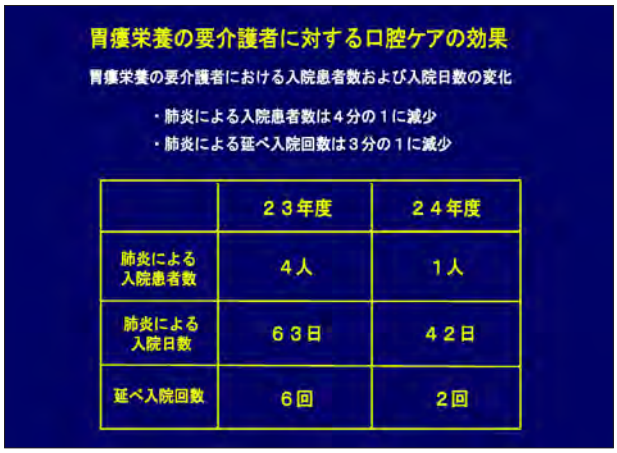
言語聴覚士と連携した摂食・嚥下訓練および発語訓練の様子を示しています。訓練によって発語が可能になり、甘い飲み物も少し口から摂取可能になりました。毎日同じように介護職員によって訓練が行われています。また、発語がまだ困難な方にはカードによる意思疎通の訓練を行っています。

この入所者は脳出血の後遺症のため口腔機能の低下が見られました。特に舌の動きや軟口蓋の動きが悪く発語が困難でしたが訓練によって少しずつ発語が可能になってきました。

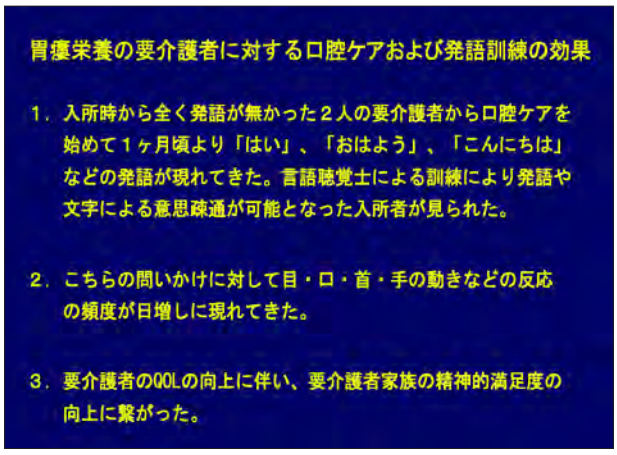


平成22年度の歯科医師・歯科衛生士による月に一度の口腔ケア指導と23年度の歯科医師・歯科衛生士による月に一度の口腔ケア指導および個別症例に対

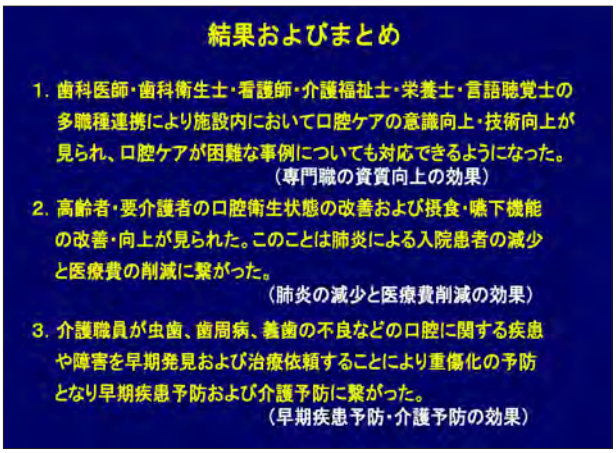
する実地指導、24年度には月に一度の指導に加えて歯科衛生士による週に一度の専門的口腔ケアを行うことにより特別養護老人ホームでは要介護者の肺炎による入院日数は平成21年度の178日から平成22年度には100日、平成23年度には77日そして24年度は65日まで減少しました。肺炎による入院割合も20%から14%まで減少しました。このことは医療費の削減だけでなく施設の減収の防止にも繋がりました。

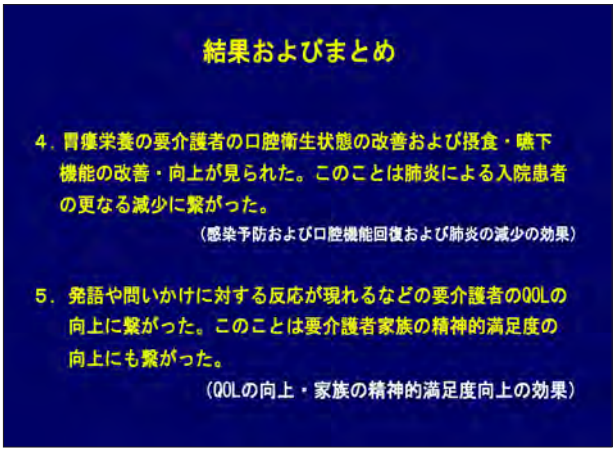


特に注目すべきことは、口腔ケアにより胃瘻栄養の要介護者の肺炎による入院患者数は平成23年度の４人から１人に減少し、延べの入院回数も６回から２回に減少しました。入院日数は平成23年度の63日から24年度は42日まで減少しました。そして、胃瘻栄養の要介護者は入所者全体の２～３割を占めますが肺炎による入院割合は入院者全体の７～８割を占めていました。週に１度の専門的な口腔ケアと職員による口腔ケアの併用により胃瘻栄養の要介護者の肺炎患者数は４分の１に、そして延べの入院回数は３分の１に減少し、肺炎予防の多大な効果が示されました。



また、要介護者へのQOL向上の効果として１）入所時から全く発語が無かった要介護者から口腔ケアを始めて１ヶ月頃より「はい」、「おはよう」、「こんにちは」などの発語が現れてきた。そして、次第に複雑な発語ができるようになった。こちらの問いかけに対して目・口・首・手の動きなどの反応の頻度が日増しに現れてきた。このことは要介護者の精神的満足の向上に繋がった。





結果およびまとめを示します。

特別養護老人ホームにおいて介護職員に対して口腔ケアおよび口腔機能の維持向上の普及活動を行うことによって施設において歯科医師・歯科衛生士・看護師・介護福祉士・言語聴覚士の多職種連携により施設内において口腔ケアの意識向上および技術向上が見られ、効率良く適正に口腔ケアが実施されることに繋がった。それに加え口腔ケアが困難な事例についても対応できるようになった。

施設における口腔ケアにより高齢者・要介護者の口腔衛生状態の改善および摂食・嚥下機能の改善および向上が見られた。このことは肺炎による入院患者の減少と医療費削減に繋がった。

また介護職員が虫歯、歯周病、義歯の不良などの口腔に関する疾患や障害の早期発見および治療依頼することにより重症化の予防となり早期疾患予防および介護予防に繋がった。

胃瘻栄養の要介護者の口腔衛生状態の改善および摂食・嚥下機能の改善および向上が見られた。このことは肺炎による入院患者の更なる減少に繋がった。

発語や問いかけに対する反応が現れるなど要介護者のQOLの向上に繋がった。このことは要介護者家族の精神的満足度の向上にも繋がった。

つまり、特別養護老人ホームにおける多職種連携による口腔ケアおよび口腔機能の維持向上の普及活動は

1.専門職・住民の資質向上の効果
2.疾患の減少と医療費削減の効果
3.早期疾患予防・介護予防の効果
4.感染予防および口腔機能回復の効果
5.QOLの向上・家族の精神的満足度向上の効果

の大きな5つの効果に繋がった。